

2025 年 「冒険学校むらまつりキャンプ」 報告

贅田隼人（だにえる・自然文化誌研究会 運営委員）

2025年5月3日～5日にむらまつりキャンプが開催され、大きな事故やケガもなく、無事に終了しました。今回のキャンプは予想を上回る参加の申し込みがあり、そこへ対応するスタッフに来てもらったことで、総勢100名弱が集まるものとなりました。参加者の協力と、スタッフたちの頑張りで、例年通りのクオリティで楽しく過ごせる3日間になったこと、この場を借りて感謝します。



キャンプに限った話ではないのかもしれませんが、多くの人が集まって活動する場では、何かやりたいという気持ちの流れや渦のようなものを、僕は感じます。子どもも大人も関係なく、一人一人がもっているものでもあるし、人が集まることでより大きなものになるものだと思っています。キャンプの初日にテントを建てることで、生活の場が整っていき、流れがで始め、川遊びが始まるところで一度ピークを迎えたように思います。子どもたちがやりたいことに取り組むことで、気持ちと心を開放していく。「あれをやってみよう。これはどうだろうか。」「もっと楽しそうなことは無いか。」と貪欲に活動していく中で、大人たちもそこへ混じっていく。子どもたちはその姿を見て、さらに探求や発信を続けていく。



水温12度ということもあり、川の冷たさは本当に体に堪えたと思いますが、参加者の大人たちとも水をかけあって遊ぶことができて、僕は楽しかったです。

寝食を忘れて、好きなことを追及することが、本会のキャンプの醍醐味の一つだと思っています。キャンプ場で、子どもたちは焚き火、川遊び、虫取り、風呂たき、工作など一心不乱に好きなことに打ち込んでいました。また、山菜採りやナイトハイク、星空観察などキャンプ場から出て、小菅のフィールドを楽しむこともできました。それだけでなく、今回のキャンプでは、夕食そっちのけで工作を楽しむ大人や、大人たち中心に滝を見に行くなど、大人が子どもたちと同じくらい活動を楽しんでくれている姿があり、嬉しさを感じるとともに、むらまつりキャンプが大成功したなと感じました。



8月には冒険学校が開催されます。多くの参加者とスタッフで、また喜びと楽しみの大きな渦を作ることを期待して、筆を置かせていただきます。



（スタッフの感想）

柚木菜花さん（なの・大学4年生）

前入り（4/30）から後日帰りまでフルで参加してみて、楽しかったのはもちろん、同時に「おつかれさまでした！！！」と強く思った。初参加から4回目のむらまつりキャンプで今更な感想かもしれないけど、今まで以上にそう感じた。夏もしっかり参加したいと思う。もっと色々なことができるスタッフになりたい。

（年上組が年下組の面倒を見ている姿がとても可愛かった）

川見美鈴さん（みれい・大学4年生）

見守りが監視にならないように気をつけたい。安全性も大切だが、あれもダメこれもダメと言われると、遊びへのやる気を無くしてしまう。

その両立ができないのなら、見守りをベテランに

任せて自分も全力で遊んでみるのもありかなと感じた。

上山栞さん（ほっちー・大学4年生）

いつもキャンプに参加して思うことは、こんな風に子供と関わってみたいなという憧れと、こんなことが出来なかったなという反省と、今回自分ができたことはなんだろう、次回はどんなことが出来るだろうということです。毎回のキャンプを通して、自分の中に課題が生まれたり、小さな達成を感じられたりすることが、自分の進路にとって目印のような役割になっているのではないかと思います。改めてこのキャンプに参加させてもらえてることに感謝したいです。

子供が自分で「やってみたい」というのを形にしていたのを見られてよかった（竈を作って食材を焼く、燻製するなど）。自分にもそういう自由さと行動力と粘り強さが欲しい。



←スタッフの佐々木正久さんのYouTube「まー君のナチュラルフ」で、「冒険学校むらまつりキャンプ」の活動の様子が観られます！！
（チャンネル登録よろしくお願いします）